

## 第1回勉強会『人とまちをつなげていく取組みとは』

～本から始まる仲間づくり・まちづくり～

第1回目となる勉強会では、“福岡を本の街に”を合言葉に本の魅力を伝える取組みを行っている「ブックオカ実行委員会」の実行委員長である大井さんをお招きしました。本から始まる仲間づくりやまちづくりについて学び、計14名の参加者とともに大野城市のこれからのまちづくりについて熱く語り合いました。

### 開催概要

■日時：2018.12.6（木）19:00～21:00

■場所：大野城まどかぴあ 301 会議室

■当日のプログラム

19:00 開会

◇趣旨説明

◇大井実氏によるレクチャー

◇会場との意見交換

◇閉会

21:00 終了

■講師：大井実氏

ブックオカ実行委員会  
実行委員長、ブックス  
キューブリック店主

■司会：吉田まりえ氏

九州の暮らし創造研究  
所 代表)

### 大井さんの“自己流”まちづくりの考え方

講師・大井さんからのレクチャーでは、学生時代から2001年に本屋を起業するまでの大井さんのストーリーや、“15坪小さな総合書店”としてコミュニケーションが生まれる書店を起業した際のコンセプトについてお話いただきました。「商売のことだけを考えるのではなく、自分は何のためにやるのか突き詰めて考えた原点があるからつづけられる」という言葉通り、大井さんの思いの詰まった書店がどのように実現してきたか、またどのように周囲を巻き込み様々な活動が波及し継続してきたかなどについて詳しく語っていただきました。



特に、2006年に少数精鋭のメンバーで設立された「ブックオカ実行委員会」の取組みについては、文化サロン、激オシ文庫フェア、散策MAP作成、音楽祭、ギャラリー梯子酒などなどの数多くの活動をご紹介いただき、イベントの際の工夫や楽しみながら継続するコツなどを学びました。

さらに、レクチャーの後半には「他人との程よい距離感」、「繋がりが対話が生まれる予感を感じさせる場」、「弱い参加が可能な場」、「文化がひととひとをつなぐ”文化縁”」など、イタリアで大井さんが実感されたまちづくりへの考えなどを交えながら、大井さん自己流のまちづくりにおけるキーワードについてお話いただきました。

### 意見交換でみえた大野城のまちづくりへの熱意

大井さんのレクチャーを受け、参加者同士でグループディスカッションを行い、大井さんの話題提供に対して感じたことや大野城でのまちづくりについて自由に意見を交換し、参加者同士で熱い思いを共有しながら考えを深めていきました。また、会の最後には車座となり全体での意見交換を行い、ひとり一言ずつ「大野城のまちづくり」や「今日の勉強会で感じたこと」などについて発表してもらい、会を締めくくりました。



◀ グループディスカッションの様子

全体での意見交換の様子 ▶



#### 当日の意見交換 「勉強会で感じたこと」

- コミュニティづくりが大事
- 自分が好きなことをやる
- お金を生む仕組みが必要
- ストレスを感じない取組み
- 次世代のための高架下まちづくりを
- 小さなお金が地域をまわる仕組み
- 子どもの発想を大事にしたまちづくり
- サードプレイスづくり
- 商店主がゆるく繋がれる場がほしい
- 小さく始める など

#### 事後アンケートの意見 「勉強会で話合っていたいテーマ」

- 人の流れについて
- お金を生む高架下!
- 高架下のイメージ作り(外からどんなイメージを持たれたいかなど)
- 何があったら良いな、他市などにある事例などを出し合う意見交換会
- 市民の方がこれから街に求める物事
- 高架下活用の具体例をきいてみたい
- 子育てしやすい町、他の地域との違いなど